

森林と湿地のネイチャーウォーク：湯滝から戦場ヶ原湿原へ

長いけれどゆるやかなこのコースは、ハイカーやウォーカーにとっての奥日光の魅力である多様な地形を体験する絶好の機会を提供してくれます。ハイキングコースは、ゆったりと流れる湯川に沿って、ドラマチックな湯滝のカスケードから、風通しの良い落葉樹の森を抜け、戦場ヶ原の広い盆地に出る道をたどります。標高 1,400 メートルの位置に約 400 ヘクタールにわたって広がる戦場ヶ原湿原は、日本で最も有名な湿地のひとつです。戦場ヶ原はかつて、約 2 万年前の付近の男体山（2,486m）の噴火で流れ出た溶岩がせき止められてできた大きな湖でした。現在この場所は、湿地に暮らす動植物の豊かながらデリケートな生態系を保護するために整備された長い木道を通して横断することができます。戦場ヶ原とは「battlefield」という意味で、この名称は、巨大な蛇に変身した男体山の神が、35km 南西に位置する赤城山の大ムカデに変身した神に勝利したという伝説上の戦いに由来します。

ハイキングコース

高低差が少ない 6 キロの道のりは、とても歩きやすいコースです。コースの起点である湯滝では、飲み物を買って足したり、遮られない滝の景色を眺めたりできます。コースの最初の 1/3 は森林の木陰の道で、その後は湿地の上に作られた木道を通ります。湿地に出ると樹木がほとんどないため、コースの大部分では直射日光を浴びることになります。バス停がある赤沼分岐点を終点とすることもできます

が、さらに 2 km 歩いて竜頭ノ滝まで向かうこともできます。所要時間は、出発から赤沼分岐点までは 2 時間、竜頭ノ滝まで向かう場合は 3 時間を想定しておきましょう。

コースの見どころ

このコースでは、湿地から森林への遷移を逆行する形で体験できます。コースを歩いていると、森林と湿地の遷移地帯である泉門池に近づくにつれ、森林の植生がミズナラなどの大きな樹木の本立からやや若いシラカバの木々へと変化していくのが分かります。長い年月の間に、山の斜面の浸食によって湿地の端が埋まっていくと、埋まった場所は徐々に乾いた土地となり、やがて森になります。戦場ヶ原湿原は、自然を愛する人にはたまらない場所です。ここには比較的乾燥した部分に見られる節くれだったズミの木や、明るい紫色のニッコウアザミを含む 100 種以上の植物が生育しています。また、夏と冬の戦場ヶ原湿原は、水辺に生息するオシドリや色鮮やかなキビタキなど、さまざまな渡り鳥の中継地でもあります。(赤沼起点付近の看板には、季節に応じて観察できる動植物が表示されています。)

コースのアドバイス

- このハイキングコースは奥日光で最も人気のあるコースなので、特にピークシーズンである盛夏と秋の紅葉時期にはかなり混み合うことをご承知おきください。
- 木道の部分には日陰が少ないので、暑い時期には帽子をかぶることをおすすめします。

- ハイキングコースと木道から外れないでください。森林や湿地はダメージを受けやすく回復にも時間がかかるデリケートな生態系です。

- 写真は好きなだけお撮りください：でも、残して帰るのは足跡だけにしましょう。